

きた たん ば ひがし ながれ い せき 北丹波・東流遺跡 発掘調査通信 2017

平成29年7月10日

(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
株式会社 アーキジオ

1. はじめに

北丹波・東流遺跡の発掘調査は、県道名古屋岐阜線街路改良工事に伴う事前調査として、平成29年5月より進めて参りました。皆様のご理解とご協力により、発掘調査をこの6月29日をもちまして無事終了することができました。新たにわかりました主な調査成果を報告致します。

2. 発掘調査の成果

このたびの調査は、県道名古屋岐阜線の下津交差点の北にある道路中央部で、岐阜側を17A区、名古屋側を17B区として調査しました。見つかった遺構（いこう）と出土遺物（しゅつどいぶつ）には飛鳥（あすか）時代から江戸（えど）時代の大きく3時期のものがありません。

(1) 飛鳥（あすか）時代から奈良（なら）時代（今から約1,400年前～1,200年前）

本遺跡の中心となる時代で、竪穴建物跡（たてあなたてもものあと）22棟、土坑（どこう）85基、溝（みぞ）2条が見つかりました。17A区と17B区の境をほぼ東西に走る溝があり、その南北に竪穴建物跡やゴミ捨て穴と考えられる土坑が多数見つかりました。須恵器（すえき）の杯身（つきみ）、杯蓋（つきぶた）、高杯（たかつぎ）、壺（つぼ）、甕（かめ）、硯（すずり）や土師器（はじき）の甕、甑（こしき）などが多く出土しました。須恵器の中には、線で文字が書かれたように見えるものがありました。

(2) 平安（へいあん）時代末から鎌倉（かまくら）時代（今から約900年前～700年前）

屋敷や畑などを区画したと考えられる溝が16条見つかりました。溝は現在の道路の方向とは異なり、その方向をほぼ真北から真南に揃えて掘られています。複数の溝が重なって見つかったことから、何度も掘り直された様子がうかがえます。南北の溝は西と東に折れるものがあることから、溝にはその西側を区画する溝とその東側を区画する溝があって、これらの区画の間には人が通る道が存在した可能性があります。溝は途切れている場所もあり、その部分は東西の区画から外へ出入りするところであったものと思われれます。溝の中からは、山茶碗（やまちゃわん）や小碗（しょうわん）、小皿（こさら）、瓶子（へいし）などが出土しました。

(3) 室町（むろまち）時代から江戸時代（今から約700年前～300年前）

調査区全体に水田が広がっている状況が確認できました。水田跡は南北と東西の方向に伸びる畦畔（けいはん）に区画された15筆（ひつ）がありました。水田の区画は1辺約5mから10m前後で、現在の区画整備された水田よりやや小さいものでした。

3. まとめ

北丹波・東流遺跡は、これまでの稲沢市教育委員会と当埋蔵文化財センターなどによる調査により古代を中心とする、古墳（こふん）時代前期から近世にかけての複合遺跡（ふくごういせき）であることが知られています。今回の調査では、その一部を確認できたのみですが、本遺跡の中心となる古代の集落の始まりが飛鳥時代にさかのぼる可能性があること、本調査区付近に奈良時代にかけての集落が連綿と営まれることが明らかになりました。今後は調査した記録と出土遺物の整理を行い、稲沢の歴史について明らかにしていきたいと思ひます。

最後に、近隣住民の皆様、関係者の皆様には多大なご支援を頂き、誠にありがとうございました。今後ともご理解・ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

問い合わせ先：愛知県埋蔵文化財センター 調査課 蔭山 電話：0567-67-4163



↑ 17B 区 1 面全景 (北より、写真の上が下津交差点、写真の下は 17A 区)



← 多くの竪穴建物が見つかりました。

↑ 17B 区 2 面で見つかった古代の集落跡 (北より)



← 須恵器や土師器が多数出土しました。

↑ 17B 区の北端で見つかった古代の東西溝 (北西より)



← カマドの跡
焼土と炭化物が集中して見つかりました。

↑ 17A 区の南端で見つかった竪穴建物跡 (東より)



↑ 17A 区 2 面全景 (北より、写真の上が 17B 区)



↑ 線刻「史？」のある須恵器の杯身